

「神の民として選ばれた目的」
出エジプト記 19章
～モーセの生涯（6）～

はじめに

今回は、モーセの生涯の6回目です。主は、モーセによってイスラエルをエジプトから救い出されました。エジプトを出た民は、荒野を歩いて約束の地カナンに向かいましたが、その間、民は神を信頼して生きて行かねばなりません。荒野には水も食べ物もありません。また、エジプトの追撃にも会いました。その一つ一つの場面で神を信じていかななくてはならなかったのです。

荒野の生活は、信仰が試される生活です。クリスチャンも、この世にあって信仰によって生きていきます。生活の一つ一つの場面が信仰を試され、育てられていく機会となります。

さて、今朝は、エジプトを出たイスラエルの民がシナイ山で律法を与えられるまでの続きです。彼らに律法が与えられる前に、主は彼らに彼らが神の民として選ばれた目的をお語りになりました。これは、クリスチャンが選ばれた目的でもあります。そのことを学びましょう。

中心聖句「今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中において、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから、あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」（19:5-6）。

1 わたしの宝、祭司の王国、聖なる国民。

神様が人間をお造りになったとき、ご自身のかたちにお造りになりました。ですから、正しく、聖い者でした。

ところが、人間は神に背き、罪を犯して、神のかたちを失ってしまいました。そして、滅びの道を転げ落ちていきました。

その人間を何とか救おうとして神様は、アブラハムをお選びになり、その子孫から神の民を造ろうとされたのです。

それから数百年を経て、アブラハムの子孫は数百万人に増えていましたが、彼らはエジプトで苦しんでいました。そこで神様は、モーセを選び彼らをエジプトからお救いになりました。それは、アブラハムをお選びになった目的が実現するためでした。

そこで神様は、改めて彼らの目的を明確にされました。

（1）わたしの宝。

神様は、民をエジプトから救い出し、「わたしのもとの連れて来た」と言われました。神様は、民を「ご自分の宝」としたのです。このことばは、繰り返し民に語られました。

適用：主は、預言者イザヤを通して別のことばで同じことを語っておられます。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」
(43:4)。

私たちも神様に選ばれました。そして神様は私たちをも、ご自分の宝と
思ってくださいているのです。

例話：子どもたちにとって、大人から見てどんなにつまらないものに見えても、
宝であるものがあります。三男の信哉は、東急電鉄の電車のマークを集め
ていました。それが彼の宝でした。

たとえ、私たちの目から見て、自分がどんなつまらなくて、いやしい者に
思えても、神様は私たちを選んでくださってご自分の宝としてくださるので
す。

(2) 祭司の王国。

これは、神の民の務めが語られていると見ることができます。それは「祭
司」としての務めです。

祭司の務めは、大きく分けると、民に代わって神に仕えることと、神に
代わって神のことばを民に教えることでした。

神に仕えることは、民のささげものを神にささげること。

神のことばを語ることは、民を祝福し、神のことばを教えることでした。

そして、神様は、イスラエルの民全体が「祭司の王国」であると言われ
ました。つまり、イスラエルは、全体として、世界の人々に代わり神に仕
え、神に代わって世界の人々に神のことばを語る民となるように、神は選
ばれたのです。イスラエルは、工業国でも、商業国でも、軍事国でなく、
神に仕える「祭司の国」となることがその目的でした。

適用：私たちクリスチャンも、全体として、教会として、世の人々に代わって
神に仕え、神に代わって人々に神のことばを語る者として選ばれているこ
とが分かります。

ですから、クリスチャンにとって、主を礼拝することは、単に自分が恵
まれるためだけでなく、祭司として人々に代わって神に仕えてる務めであ
ることを自覚すべきです。

さらに、私たちは祭司として、人々に神のことばを教える責任があるの
です。

(3) 聖なる国民。

これは、「神に聖別された国民」という意味です。この世の民から特別
に神の民として聖別されたのがイスラエルでした。ですから、実質的にも
聖くあることを求められました。

神のことばが特別に与えられ、それに従うことによって聖くなることを
求められたのです。

適用：私たちクリスチャンも、この世から聖別されています。「聖徒」と呼ばれています。クリスチャンは、この世の人とは違うのです。もちろん、同じ所はたくさんあります。でも、クリスチャンの目的は、この世で成功することではありません。聖く生きることです。世の人々に神様の聖さをあかしして行かなくてはなりません。私たちの生活は、世の人と違わなければならないのです。

2 私たちは主が言われたことをすべて行います（8）。

（1）主が言われたことを。

神の民の行いの基準は、何だったのでしょうか。それは「まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら」とあるように、神様のみことばを守ることでした。

適用：私たちにとって、聖書が神のことばであり、信仰と生活の唯一の基準です。

（2）すべて行います。

モーセが民に主のことばを伝えたとき、民は、「私たちは主が言われたことをすべて行います」と答えました。この時、シナイ契約が結ばれたのです。

神の民が、神の宝、祭司の王国、聖なる国民であるためには、神のことばを守り行う必要がありました。そうでなければ、外見上はそうであっても、実質の伴わないものとなるからです。

適用：私たちクリスチャンも、神のみことばに従い、生活することを求められています。

黙々と、たんとんと主のみことばである聖書に従って生きる。これがクリスチャンです。そうしないならば、名前だけのクリスチャンとなり、主から離れてしまい、とうてい人々に神様をあかしすることができないからです。

結論

神様は、イスラエルの民が選ばれた目的を明らかにお示しになりました。私たちも神の民として、神に選ばれた目的をはっきり自覚する必要があります。

では、イスラエルはその後、この神様の目的を完全に達成出来たのでしょうか。残念ながら出来ませんでした。神の民は神に背き、墮落していったのです。

そのために救い主イエス・キリストがお出でにならなくてはなりません。それは、また、アブラハムに約束された「全世界の祝福」のためでした。それで、全世界の人々が神の祝福を受けることが出来るように、全世界の人々の中からクリスチャンを選び、クリスチャンを祭司とし、聖なる民としてくださったのです。

適用：使徒ペテロはこう言っています。「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためなのです」（Iペテロ 2:9）。

私たちが選ばれた目的をもう一度確認し、その目的を達成するために、聖霊の助けを求めつつ、主の道を前進しましょう。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれませんが、しかし、イエス様はあなたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしゃい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒 16:31）

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私は、あなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。しかし、イエス様は私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン